

F u - Z i n

第46号  
平成29年11月発行



報告

第38回NPO博多の風フォーラム

山笠と博多今昔



報告

第16回博多のおいしゃんと歩こう  
追い山笠コース探訪

告知

第17回  
あつまれ楽文コンテスト表彰式

## 近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください  
<http://hakanokaze.jp>

### 平成28年

- 4月 第36回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師: 沢田 幸二氏 (KBC九州朝日放送アナウンサー)
- 6月 第15回 追山コース探訪 開催  
第16回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第37回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師: 大庭 宗一 (NPO博多の風理事長)

### 平成29年

- 4月 第38回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師: 平井 彰 (NPO博多の風副理事長・事務局長)  
(一社 九州経済連合会 常務理事 事務局長)
- 6月 第16回 追山コース探訪 開催  
第17回 楽文コンテスト 開催

## NPO博多の風の歩み

- 設立  
平成10年 9月  
任意団体『博多の風』設立 代表: 大庭宗一
- NPO登記  
平成12年 6月  
『NPO博多の風』として登記 理事長: 大庭宗一

## NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
  - ・博多の風フォーラム開催
  - ・広報誌・HP発行
  - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
  - ・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
  - ・博多の町親交  
(清掃活動・クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
  - ・書籍出版
  - ・博多祇園山笠の振興
  - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
  - ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027  
福岡市博多区下川端町8-16 -302  
FAX 092-263-7188

E-Mail [info@hakanokaze.jp](mailto:info@hakanokaze.jp)  
URL <http://hakanokaze.jp>





# 山笠と博多今昔

去る平成29年5月20日、第38回NPO博多の風フォーラムが大原保育医療専門学校福岡校5階会議室にて開催されました。今回はNPO博多の風副理事長である平井彰が登壇し、「山笠と博多今昔」として博多の町と山笠の歴史についての話をさせていただきました。



平井 彰 (ひらい あきら)  
NPO博多の風 副理事長・事務局長  
昭和31年3月30日 福岡市生  
九州大学経済学部経営学科卒  
(同窓会理事・福岡支部副支部長)  
三菱鉱業セメント(株)、三菱石炭鉱業(株)  
(何れも現「三菱マテリアル」)勤務の後、  
九州経済連合会(九経連)へ転職。土居流  
片土居町より博多祇園山笠に参加。  
趣味は、山笠・フランス料理・ジャズ等々。

## ■博多の古地図

まずは、博多の古地図から入らせていただきます。古いものに遡ると鎌倉時代の博多の古地図があります。こちらは呉服町の大博通り沿いに博多の歴史資料として沿道に設置されているので実際に皆さまも気軽にみる事が出来ます。これをみると今の福岡の天神あたりは入り江になっていて存在自体がありません。この辺りは黒田氏が入って来たときに埋め立てられて出来た土地と考えられており、この頃は博多部だけがあったことが古地図に示されています。福岡にゆかりがある歴史上の人物の一人に菅原道真がいますが、大宰府以外にも菅原公にまつわる神社がいくつもあります。京都から流されてきた道真は博多に上陸したあとすぐ今のリブレインの辺りで水に映った自身の姿をみて嘆いたといわれており、そこが現在の鏡天満宮となっており移ります。またその後大宰府へ移

動していく道のりで今の薬院駅近くの姿見橋という所があるのですが、そこで川面に映った自身の顔をみてまた嘆いたことにちなみ姿見天神という神社が出来ます。この姿見天神は後々黒田藩が福岡に入ってきた時に福岡の鬼門の位置を守るようにと現在の水鏡天満宮に移されたと言われています。

次に鎌倉から室町時代の地図を見てみます。海沿いに特徴的なものが見られますが、こちらは元寇防塁です。文永の役・弘安の役の二度に渡り防塁がこの時期の地図に記されています。現在は西新や様々な地域で防塁の史跡が残っています。時代ごとの地図を見ていくと福岡博多の歴史と地形の変遷が分かるようになっていきます。山笠の追い山コースの地図の古いものを見てみますと、街並みの変化はあるものの、コース自体は千代流・中洲流を除いた博多

部全体を通るコースとして昔から変わっていないことが分かります。

また、博多の古い絵図を見てみると山笠にまつわる場所を描いたものが沢山出てきます。お汐井取り行事で全流が足を運ぶ箱崎浜の絵図では灯台の役割をしていた大灯籠が描かれており今とほぼ変わっていないことが見て取れます。櫛田神社の絵も多く残っています。櫛田入りの図では今の飾り山ぐらいの山が櫛田入りをしていくことが分かります。山笠だけでなく、現在の博多どんたくに繋がる資料もあります。博多の祭の中で1年のうち上期のメインが松囃子、下期のメインが山笠だっただんです。その松囃子が今のどんたくに繋がっています。観光客の多くがどんたくをただのパレードと思っているふしがありますが、この松囃子にパレードが付随している祭なんです。その松囃子の絵図を見ると三福神の姿やお菓

## ■暦の中の山笠

山笠に話を戻しますと、皆さんご存知の方も多いと思いますが、山笠の起源は承天寺にあります。1241年、博多の町に疫病が流行しておりまして大変なことになっていました。そこで承天寺の開祖である聖一國師が疫病退散とあって施餓鬼棚に乗って町中に水を撒いてまわったのが山笠の始まりだと伝えられています。一方で史料に初めて登場するのは1432年なんです。その中でももう既に今の山笠に通じる姿になって登場しておりまして、沿道に数千人の観衆が集まりかつて見たことのない山のような山車に酔いしれたという記述があります。近世の記録では京都祇園祭に比べてもその規模は非常に大きいという記載もされており、特に京都と違うの

が毎年異なった形のものに作り替えられているということだったようです。追い山の期日は新暦の7月15日になったのは明治44年(1911年)からでそれまでは6月15日でした。今も山笠の注連おろしの行事では恵比須流だけは1か月早く行い、他の流は7月1日からということになっていきます。祭り期間の始まりは今博多どんたくの関係で6月1日ですが、以前は山ぐりの作業場を設ける小屋入りやの行事は旧暦の4月1日だったといえます。夏の入りにあたりこの日から櫛田神社の夏中安全の辻折袴が行われます。山の組み立てにかかわるのが5月下旬で御神入れが済むと5月末日の夕刻に当番町のお汐井取りがあります。その夜から櫛田神社の神職が各流を回り被って町中が清められ6月1日早朝各流の町の辻々の境に注連縄がかけられ山笠が動き始めます。1日から7日まで奇数日に流昇が行わ

れ11日の朝山が終わると14日まで他の流の区域まで山を動かす他流昇が行われ15日によいよ追山を迎えるという祭りの期間でした。

## ■絵で見る山笠

次に昔の山笠の絵を詳しく見てみます。1686年に描かれた山笠最古の屏風図には四番山笠土居流当番町土居町上、表題「雲雀山」とあります。昔は土居流の各町は土居町上・土居町中・土居町下と呼んでいたんですね。山に目をやると山笠の上部には多数の旗挿しがあります。台上がり「鉄砲」と呼ばれるものではなく軍配を手にはしていない。また昇き手は揃いの法被

姿ではなく締込以外はそれぞれバラバラだったようです。手拭もなく昇き縄は実際に昇っている時だけ使っていて棒に据え付けられていたのではないかと考えられています。山に巻く幕も現在は動いている時が青で動かない間は赤という風ですが、昔は動いている時も赤だったようです。

これまで昔の山笠について話して来ましたが、このフォーラムの話をいただいている時から、私のような若輩者が先輩を目の前にして山の話をしていいものかと思っていました。でも、色々調べて考えていくと、山笠は歌舞伎や落語という伝統芸能と似た部分があつて師匠から弟子へ言伝に伝承が伝えられているので、ある種きちつとしたガチガチのものが伝えられているのではなく幹となるものを伝えただけであとは自分たちで考えてやりなさいというものなんだなと感じるようになります。だから、博多の方々は逆にきちつとした整理はあえてしていないように思えます。昨年山笠がユネスコの世界遺産に登録されましたが、これも整理された資料の積み重ねというよりは山笠と山笠に

まつわるしきたりを含めた無形の文化遺産として登録されています。そんなわけで博多の人はあまりこういう風な話をしないのだろうと思えますので、あえて私のような若輩者が話をするのもいいのかなという事で話をさせていただきました。

## ■追い山笠コース

続いて追い山笠コースの話をさせていただきます。まずは土居通りからスタートです。土居通り沿いの旧冷泉小学校があつた場所には元々大乘寺という立派なお寺がありました。このお寺は806年に空海が開いた寺で一時期廢れる時期もありましたが、黒田の時代に復活してしまつた。その後戦争で焼失してしまつた。今は土居流を構成する町の一つである大乘寺前町という町名にその名残があります。続いて櫛田神社です。櫛田神社は757年創建の天照大神・大神宮に基づく神社で櫛田宮・大神宮・祇園宮を祀っております。かの有名な鑑真和尚が奈良の唐招提寺を建てたのが759年といいますが、櫛田神社はとも古くい神社であることがお分かりいただけます。ただそれかと思つた。その櫛田神社の土居通り沿いに山留めがあります。この山留めに7月12日・15日に一番山からずらつと山笠が並びます。山留めの位置が山の棒鼻の位

置になっていて、ここからスタートして清道を回って棒鼻が境内を出るところまでの112mの時間が櫛田入りタイムとなつており概ね30~40秒の間でゴールします。一番山だけは清道を回った後、山を止めて博多祝い唄を歌い止めます。その分だけ時間を考慮して一番山のスタート時刻が4時59分と半端な時間となつていります。あと、博多祝い唄にも出てくる櫛田の銀杏ですが、立派な大銀杏でして、道路の拡張工事があつた折にもご神木を切つたり移動したりしてはいけないという事で櫛田の銀杏の分だけ道幅が狭くなつたりしています。

さて、山笠は櫛田神社を出て国体道路へ進んでいきます。国体道路から大博通りへぶつかる時、大博通りの中央分離帯の一部だけ無い箇所があります。そこが2つ目の清道になっていて、神仏分離前に櫛田神社を管轄していた東長寺に敬意を表して清道を回ります。東長寺も空海が建立した寺で、以前は現在の土居通りと昭和通りがぶつかる辺りにありました。その辺りは土居流の町の1つである行町へと繋がっています。山笠は東長寺の清道を回った次は承天寺に向かいます。承天寺は先述の聖一國師が1202年に開山しました。承天寺は実

ば・饅頭といった発祥の地と なつていきます。そんな承天寺ですが、山笠発祥の地ということで敬意を表して3番目の清道が設けられています。最後の清道を回った後、山は東町筋を進んでいきます。その途中には聖福寺というお寺がありますが、ここはお茶の発祥の地といわれています。東町筋は車幅がとても狭く昇き手も交代などが難しい道となつていきます。東町筋の途中には急な下り坂が出現するんですが、この辺りが昔の海岸線だったといわれています。(中略)

## ■あとがき

博多の歴史を山笠中心に紐解いていただきましたが、博多の町には様々な歴史・伝統が残っていることを改めて学びました。町のこと・人のこと・山笠のことを身近な人に話してみたくなる良い機会となりました。(大浦晴彦)





# 博多の おいしちゃんとして 博多を歩く。

追い山笠コース探訪

## 体験記



6月4日に今年で16回目となる恒例の追い山笠コース探訪を実施しました。今年も新聞紙上での案内やホームページへの掲載として情報番組へのテレビ出演を通じて広く参加を呼びかけ、例年以上の多くの皆さまにご参加いただきました。

当日は9時に冷泉公園に集合。理事長の挨拶と世話人からの注意事項などの連絡を済ませたのち、班毎に分かれた参加者と法被に身を包んだおいしちゃん達が次々と博多の町に歩き出していきました。

追い山笠コースは櫛田神社をスタートして須崎の間屋街の廻り止めまで約5キロの道のり。追い山笠本番は約30分で進むコースを探訪では約2時間かけて歩きます。語り部は博多の風の仲間達。博多雑学や山笠のうんちくを思う存分堪能できます。

今回お話を伺ったのは、朝倉郡からご参加いただいた梅野みゆきさん。山笠については、これまでテレビで観たことはあっても生で観たことはなかったとのこと。ふとした時に新聞の募集記事に目が留まって、山笠の見どころを知りたいというです。

●参加前の山笠や博多の町のイメージは？  
テレビでも迫力がありませんが、生で観るととてもないんだらうなあと。(今日参加してみても博多の町は粋で情緒がある印象。また、歴史が古くお寺が沢山あるイメージがあります。今日は山笠だけでなく博多の色んな話が聞けるのを楽しみにしています。

●櫛田神社の雰囲気や櫛田入りのイメージは伝わりましたか？  
やっぱり由緒ある神社で厳かな雰囲気ですね。心が落ち着きます。博多のお祭といえどもやっぱり山笠です。他にも色んなお祭があるのは今回初めて知りました。

山笠が入ってくる清道ですが、テレビで観るとは大違いで、こんな狭いところを廻っていくんだと驚きました。実際に追い山笠を生で観てみたいですね。山笠については知らないことばかりで、順番に意味があることなんて思いもしなかったです。山笠を実際にやられていて話をして聞ける機会が貴重ですね。山笠の歩き方についても聴いてみたいですね。

●博多の町の歴史と追い山笠コースは何かですか？  
東長寺や承天寺、聖福寺といった仏閣に直接入れて貰った経験でした。博多にまつわる歴史上の人物の詳しい話も聴けてとても有意義でした。今日はコース探訪でしたが、また別の機会を作ってゆっくり復習しに来てみようと思います。

●追い山笠コースは予想外に狭い道があつてびっくりしました。狭い道を昇っていく工夫や広い道の蛇行の話、曲がる時の遠心力の話など聞き手の語り手さんから実体験を聴けて、今度から山笠の見方が変わると思っています。

●探訪を振り返っていかがですか？山笠へのイメージは変わりましたか？  
5kmって長いなあという印象、これを山を担いでいくんだから信じられない。頭が下がります。山笠を昇るのは大変なんです。語り手の皆さんが詳しく面白く話してくるのでとても楽しかったです。山笠をやっている人たちは粋でいなせでピシッとしていて、ですね、かっこよかったです。一生懸命さが伝わって、神事としてしっかりやられてるんだなと改めて感じました。とても有意義な機会を得られてとても嬉しかったです。

### 8 15日廻り止め

須崎問屋街にある廻り止め。最後の直線は以外と長いですが、看板が見えると、自然と山足も速くなります。



### 7 豊国神社



### 6 西町筋

ごんどう通りを曲がると、西町筋です。この角では、道幅が狭くベテランの鼻取りが付くことが多いです。



### 5 浜口公園(休憩)

休憩中に山笠の昇き方を解説中



### 4 聖福寺

東町筋に入ると、寺社が多い町並みに変わります。聖福寺では「博多べい」や立派な楼門を見る事ができます。



### 3 承天寺

3つ目の清道旗が立ちます。山笠の迫力を間近で見れるポイントです。



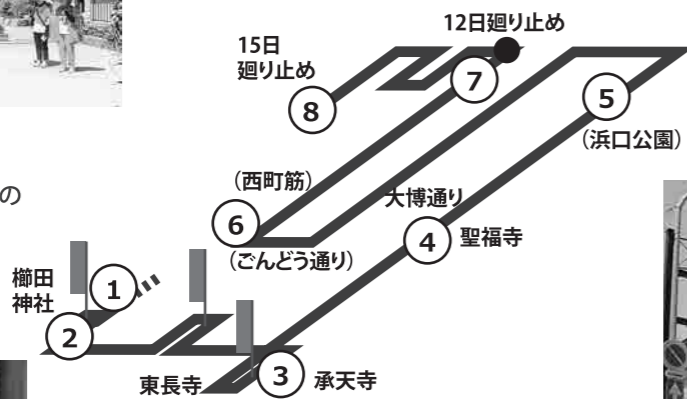
### 2 櫛田神社境内

追い山笠の時には櫛田神社の境内に清道旗が立ちます



### 1 山留め

追山笠のスタート地点は「山留め」。太鼓の音と共に、清道を目指して一気に駆け上がります。





# 来風人



幹事紹介  
池田祐輝さん(30歳)  
NPO博多の風 広報事業担当  
■職業:公務員(福岡市港湾空港局)  
■土居流 川口町

■山笠との出会い  
私と山笠との出会いは、学生時代にまでさかのぼります。当時、国際交流のボランティアをしており、様々な海外からのお客様と一緒に福岡市内を案内する活動をしていました。あるアメリカ人からいろいろと質問をされ、私自身も福岡市について知らないことが多いことに気づきました。その時期にたまたま、ボランティアの中で山笠に出ている人がいて、その人の紹介で、土居流の川口町から参加させ

■山笠から学ぶ事  
私が所属している川口町は毎月第2土曜日に皆で集まって、山笠期間中に向けた準備のために話をしています。多くの人がかわりますので、先輩や後輩とのコミュニケーションの大切さを痛感しています。その中で、先輩から言われてから動くだけでなく、報・

■NPO博多の風について  
私は広報を担当させてもらっています。まだ担当と言えるレベルではないので、まずは、博多の風の活動そのものを勉強しています。実は、博多の風には良い活動がたくさんあります。例えば楽文は小、中学生が応募してくれませんが、中には感動する作品もたくさんあります。他にもフォーラムは講師の方に様々な公演をしていただき、自己啓発や歴史など様々な分野の面白い話が聞けます。これらの活動を紹介することで、賛同者を増やすことが広報の役割だと思っています。まだ慣れませんが、これから頑張りたいと思います。

■梅野さんの質問に対して  
山笠の見どころを教えてくださいとのことでしたので、できる限り情景が浮かぶように意識をして、テレビでは分からない昇手としての目線の話をするよう心掛けました。

■昇き方について  
私は主に見送り(人形の後ろ側)を昇るので、見送りを中心に棒への入り方や、交代の仕方などを話をしました。つく棒で異なる昇き方、ポイントがあるので、「また来年違う人から話を聞くと、私と

## 告知

### 第17回

## 楽文コンテスト表彰式

平成29年11月19日(日)開催(予定)  
開場10時30分 開演11時  
会場 博多小学校 表現の舞台

今回で17回目となる楽文コンテストですが、7月から9月の募集期間に、福岡市内外の小中学校から約1750通の応募がありました。すべての作品に目を通し、1次選考から4次選考を経て、博多の風の執行部や後援・協賛いただいた企業・団体の方にも協力頂きながら、作品を選ばせていただいております。家族や友達のこと、お祭りや夢中になっていることなど、「君が大好きなこと」について書いた作品で、子供らしい生き生きとした作文や、大人では気付かない視点での文章など、読み応えのある作品がそろっています。表彰式では、優秀作品の表彰と、各賞代表の方の作品発表を予定しています。ご期待ください。

第37回 博多の風フォーラム



第37回 博多の風フォーラム



昨年の表彰式(平成28年11月)

連・相をきちんとすること等は、仕事にもつながっていると思います。また、いつもあることへの感謝の気持ちを学びました。例えばご飯を作ってもらったときなど、いつものことであれば、当たり前になってしまいがちです。いつも感謝の気持ちを持たないことは難しいと思います。感謝の気持ちを忘れなければ、自然とお礼も出来ます。この当たり前の大事さは山笠に出てなければ気づかなかったと思います。

## 賛助会員募集中

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お近くの博多の風の幹事か下記までご連絡ください。

一般会員  
一口 1,000円(年間)

特別・法人会員  
一口 10,000円(年間)

(一口以上、何口でもお申込みいただけます。)

お問合せ先  
「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)  
E-mail info@hakatanokaze.jp  
FAX 092-263-7188

## 大庭宗一の大人気エッセイ

シリーズ第10弾 好評発売中



「明日への一言。10」  
熱いメッセージがいっぱい詰まったエッセイ集です  
定価600円(税込み)

ホームページからも購入できます。  
URL <http://hakatanokaze.jp>

## 追い山笠コース探訪 体験記 Vol. 2 語部編

前の頁では、お客様として参加された梅野さんの話でしたが、ここでは語部(かたりべ)として参加した池田さんの話をまとめています。池田さんは、参加者の皆さんが少しでも山笠のことを知ってもらい、実際に山笠を見に来てもらえればという思いで説明をしていたそうです。



榎田神社境内にて説明中

■榎田入りの話  
私が初めて選ばれたのは約10年前ですが、そのときは今でもはっきりと覚えています。榎田入りは名譽なことだと感じていますが、その反面、町や流を背負うプレッシャー、いつも同じ棒を昇く仲間達の想いを背負うプレッシャーがあったことをお伝えしました。

■昇手として意識している事  
キツイときに山を昇いて盛り上げることを意識しています。自分がキツイときは皆もキツイので、そういう時には特に山につくようにしていることをお伝えしました。

### 編集後記

小学一年生になる甥っ子と昔懐かしい糸電話で遊びました。幼い頃を思い出しながら紙コップと糸で工作する私を不思議そうに見つめる甥。今の子ども達にとって「アナログ」な糸電話では物足りないのかという昭和生まれの叔父の不安をよそに彼は「あーでもない！こーでもない！」と音の原理を楽しんでいました。コミュニケーションの手段は進化を続け、手紙しかなかった時代から無線が生まれた電話が出来、インターネットが普及し携帯電話が身近になり現代の人々はSNSに追いつける毎日を送ります。利便性が向上することによって人々の暮らしも向上して来ましたが、便利になっただけで困った部分も出てくるもの。

風人の編集チームもLINEを活用して連絡を取り合いなんとか完成にこぎつけます。コミュニケーションの手段がいかに便利になるかと、想像のしやすさを感じます。LINEよりも電話、電話よりも面と向かって話すこと。770余年伝統の山笠の根幹を心に新たに

(大浦 晴彦)